



まつなみ がらす
松浪硝子工業株式会社（八阪町）



ライフ
サイエンス
事業

顕微鏡用ガラスは、病院や研究所、試験所など顕微鏡を用いるところに欠くことのできないものです。

江戸時代の弘化元年(1844)に、初代松浪藤右衛門が薄玻璃を素材にして合わせ鏡を作ったのが、松浪硝子工業の始まりです。3代目の定吉が研究を重ね、明治37年に顕微鏡用カバーガラス、スライドグラスの製造に成功しました。昭和23年、4代目定雄の時に現在の八阪町に新工場を建設し、松浪グラス製造所から松浪硝子工業株式会社になりました。現在、松浪硝子工業を支えているのは5代目、松浪明社長です。

どんな製品を作っているの？



病院や研究所で使われる顕微鏡用のカバーガラス、スライドグラスです。その販売シェアは、日本の65%を占めており、明治37年の製造開始からナンバーワンの地位を維持し続けています。

近年、病理検査は機械化が進み、それに使われるガラス製品は、サイズの精密さや、表面の均一性がますます求められるようになり、日々、品質改善に向け、努力をしています。医師の病理検査は、検査結果を間違えると大変なことになります。そのため、正しい検査結果を導き出すため、コンピューターソフトを使い情報を管理する仕事もしています。

研究所では、薬の開発をするための細胞の培養研究がおこなわれています。そこにも松浪硝子工業の製品が使われています。

さまざまな精密なエレクトロニクス製品に松浪硝子工業のガラス製品が使われています。画像をデジタル信号に変えるための画像センサーという



電子部品に、カバーガラスや赤外線カットフィルターが使われています。画像センサーは、家庭で使われる一眼レフ用のカメラにも使われています。

また、カーナビ用のガラス、インターネットでやり取りされる膨大なデータを管理するデータセンターで使われる通信用部品でも松浪硝子工業のガラスが活躍しています。

光・電子
事業

現場を見てみよう！

見える化が徹底されています。毎日の進捗を全員がモニターで確認する作業場、毎月社内新聞を発行し情報の共有、作業者の提案を採用するなど、全員が「明るく、楽しく、元気よく」定年まで働く環境を大切にしています。

工場管理部門



精緻なガラスの表面を改質したりコート材で補完するなど、ガラスの特性を高める技術の研究をしています。

研究開発部門



設備投資で機械化が進んでいます。機械化出来ない工程は、作業者が厳しくチェックし、人と機械も一体で作業しています。社員のほとんどは品質検定の資格を持っているプロフェッショナルです。



社内新聞

松浪社長に聞きました！

松浪 明さん



Q

若いころの経験で、印象に残っていることを教えてください。

工場では、ガラス製造を原料から製品完成まで一貫作業で行っていましたが、工程が複雑で生産性が上がらず、苦労していました。また、高熱での作業環境は従業員の健康にも良くないと考えていました。それで、原板を海外から輸入し、その板を加工する工程に改革しました。一貫作業から、加工業に転身するという決断はつらく厳しいものでしたが、この思い切った工場改革があって今があると考えています。

Q

江戸時代から続く会社を継続させる秘訣を教えてください。

一番苦しかった時期は終戦直後でした。お金もないゼロからのスタートでした。海外輸出がほとんどの頃、変動為替相場制になり利益がない時期もありました。その頃、アメリカから病院での検査技術が日本の医療機関に導入され、臨床検査が病院で行われるようになり、事業が拡大していきました。時代の進化やお客様のニーズを理解し、お客様目線で、新しい切り口で創造し続けることが大切だと考えています。

コンピューターの発展により世の中が変わっていきます。新しい世界を開くために何をすべきか、進化する時代に対応していくにはどうあるべきか、従業員が5年、10年先の明るい未来を思い描けることが大切だと考えています。明るく、楽しく、元気よく、個人の利益追求ではなく、全員が、地域社会に貢献する会社を目指しています。

鏡板

常に先を目指し、トップシェアを維持する鏡板

りんかい
株式会社北海鉄工所（臨海町）

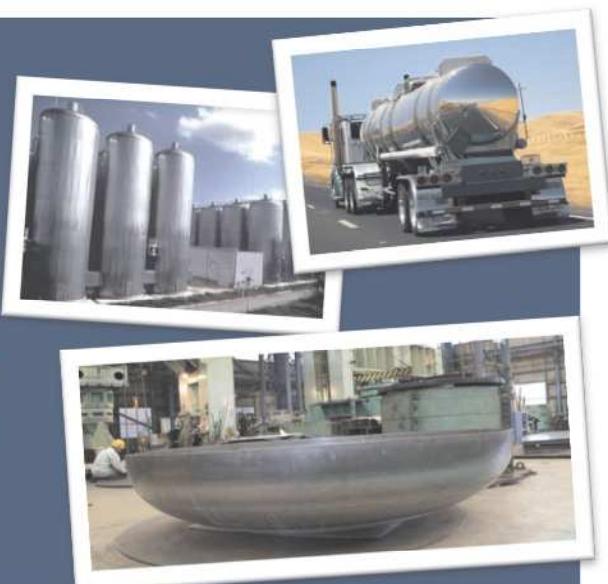


鏡板は、あらゆる産業製品の圧力容器設備機器に使用される必需品です。北海鉄工所は、昭和21年、戦後の激動の時代に林泰俊が大阪市西成区に林溶接工業所として創業したのが始まりです。溶接の技術が認められ、昭和27年には工場を確保、仕事も確実に増えていき、昭和30年、(株)北海鉄工所に改組しました。

最初は製缶業でした。鏡板は鏡板屋から取り寄せていましたが、質が悪い上に値段も高かったことから、「鏡板をわが社で製作する！」と宣言し、資金も技術もないゼロからのスタートで、世界にも類のない鏡板製造装置を3年がかりで製作しました。結果、加工時間は従来の30分の1になり、生産性は30倍になりました。品質は画一的になり、「受注後3日で納入」「価格は従来の50%」「品質保証」をお客様に約束し、「安心と信頼の北海の鏡板」の基礎ができました。以来、鏡板専業メーカーとしての地位を確立し、あらゆる材質・用途に適応した加工技術を開発、その高度な技術は宇宙開発や原子力などのテクノロジーの最先端分野に応えています。現在、北海鉄工所を支えているのは2代目、林孝彦社長です。

鏡板ってどういうもの？

「鏡板」は、各種プラントや圧力容器の端面に使用されている放物線曲線で鏡餅の形状に似ている特殊形状部材です。その使用領域は広く、石油精製、原子力発電、火力発電、宇宙ロケット、薬品、食品、パルプ、繊維など、あらゆる産業の圧力容器設備機器に使用される必需品です。使用法や目的に応じたさまざまなニーズがあります。小径のものから、最大15メートルにもおよぶ大きいものまで多種多様です。



岸和田市内でも
北海の技術がたくさ
ん見られるよ！
どこかわかるかな？



NEWS

鉄人 28 号の巨大モニュメントも北海製！

平成 21 年、神戸市新長田の若松公園に巨大な鉄人 28 号モニュメントが約 2 年かけて完成しました。阪神淡路大震災からの復興シンボル、神戸の新たな観光スポットとして制作にかかりました。約 700 枚のパーツを 1 枚 1 枚職人が手作業で加工しました。



読んでみよう！

鉄骨構造

直立時設定：18m（高さ 15m30cm）

総重量：50t 基礎重量：150t



林社長に聞きました！

Q

鏡板の魅力を教えてください。

A

私たちの製造する鏡板は、一般的にはほとんど知られていない商品です。ところが、もし鏡板がなかったら、私たちの生活が成り立たないくらい重要な役割を果たしていて、社会のあらゆる分野で広く使用されています。この鏡板を安定供給できるように、私たちは常に技術の研さんと品質の向上に努めています。お客様にご満足いただくため、責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。鏡板の製造を通じて、社会に少しでも貢献できることに魅力を感じています。



林 孝彦さん

Q

会社を継続させる秘訣を教えてください。

A

会社で働くすべての人にとって、そこで働く意義を見出せるようにしなければなりません。それには社員が共感できる明確な会社の理念やポリシーが大切です。私たちは創業者の思いが込められた会社の方針があり、全社員の行動規範となっています。

次に、全社員が自分の役割を果たし、目標を達成することが重要です。目標を掲げ、達成するための計画を立て、その計画がうまく進んでいるかどうかをチェックし、常により良い状態に改善する目標管理を行っています。さらに、お客様に喜んでいただける技術革新を重ね、サービス向上に努めています。これらを確実にやってきたことが、70余年、会社を継続させている秘訣だと考えています。